

京都市動物園チンパンジー舎改修設計

Date | H19～22

Location | 京都市左京区岡崎法勝寺町 岡崎公園内

Client | 京都市

Types | 基本計画・基本設計・実施計画

京都市動物園では、新たに個体群を導入し、チンパンジーの飼育を行うことになっており、国内の動物園では初の試みとなる、京都大学との連携による認知実験を行うことが決定していました。限られた予算と敷地・施設規模のなかで、効果的な改修整備を行うため、動物園の飼育担当者・獣医師や京都大学の研究者との協議を重ねました。

屋内施設には、認知研究を行うための学習室の他、寝室、個室を整備。屋外放飼場には、小規模ながら9mのタワーを設置。学習室では、京都大学霊長類研究所で実施されている認知研究と同レベルでの研究が行われる環境を整備。日々の健康を維持するための仕掛けとして、タワーは国内でも類例の少ない鋼製と木製の混構造となっています。

構造が複雑になるタワーの検討ではスタディ模型を作成し、動物園関係者との協議を行うためのツールとして活用しました。また、京都岡崎という場所に配慮し、周辺景観への影響に配慮した施設としています。

【市民ZOOネットワークエンリッチメント大賞2009審査委員コメント】

限られた空間・予算の中で、チンパンジーという種に特徴的な能力である「知性」、「好奇心」、「学習意欲」、「社会性」を發揮できる施設を作った点が評価されました。室内展示場を改築した「学習室」で、研究者が認知研究を実施している点が非常にユニークで、チンパンジーたちも、喜んで自主的に学習に取り組んでいます。また、ここで過ごす時間が生活のアクセントとなり、チンパンジーにとってより心豊かな社会性が育まれていることも注目に値します。大学と連携して、動物の持つさまざまな魅力を引き出す施設として変化していくとする京都市動物園と動物園のスタッフの姿勢は賞賛に値します。チンパンジーたちの学習能力の発展やそれぞれの個性をどのように見せていくことができるか、この新しい取り組みの今後の展開が楽しみです。

■ 市民ZOOネットワーク主催エンリッチメント大賞2009受賞施設

(注：受賞者は京都市動物園)

